

「Brexit の背景、現状と展望」

ウィッタカー オックスフォード大学教授による講演会を開催

開催日： 2020年1月14日(火)
場 所： 経団連会館
講 師： ヒュー・ウィッタカー オックスフォード大学日産日本問題研究所教授

経済広報センターは1月14日、東京・大手町の経団連会館で、英オックスフォード大学日産日本問題研究所のヒュー・ウィッタカー教授を招き、「Brexit の背景、現状と展望～日本への意味合い」をテーマに講演会を開催した。会員企業・団体等から約40名が出席した。

ウィッタカー氏は、わが国をはじめとする東アジア諸国の経済発展や、その過程における企業統治の専門家。まず、イギリスが幾度もの総選挙や国民投票を経てもなおBrexitに向けて邁進するに至った経済・社会的背景を、19世紀末のニューリベラリズムの浸透にさかのぼって解説した。

続いて、Brexit 後のイギリス経済の展望として、同国はまずEU、次いで米国をは



じめとする旧植民地や大英連邦の各国と順次、新たな関係を樹立していくことが急務となるため、日本を含む東アジアへの対応には時間を要する、との見立てを示し、Brexit 後のイギリス経済の建て直しはきわめて長期化すると警鐘を鳴らした。

後半の質疑応答では、ジョンソン政権の今後の政策をめぐり活発な意見交換が行われた。

以 上